

テーマ：2011年10-12月期GDP予測値の微修正
発表日：2012年2月8日（水）
～国際収支統計の結果を受け、予測値を前期比年率▲1.8%に下方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

○ 国際収支統計の結果を受けて予測値を若干下方修正

2011年10-12月期の実質GDP成長率（2月13日公表予定）は前期比年率▲1.8%（前期比▲0.4%）と予測する。当社は、1月31日の段階で前期比年率▲1.6%（前期比▲0.4%）を予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、僅かに下方修正した。

本日公表された2011年12月分の国際収支統計において、財、サービスの輸出入が筆者の仮置き値を上回ったことから、輸出が前期比▲3.5%（従来予測値：同▲3.6%）、輸入が同+0.7%（従来予測値：同0.0%）と、1月31日時点での予測値からそれぞれ上方修正を行った。輸入の上方修正幅が大きいことから、外需寄与度の予測値は前期比年率▲2.6%ポイント（従来予測値：▲2.4%ポイント）と下方修正となった。なお、2月7日に公表された12月分の家計消費状況調査の結果を反映して個人消費についても再推計を行ったが大きな影響はなく、従来予測値（前期比+0.2%）から変更していない。その他の需要項目についても変更はない。

2011年10-12月期のGDPは、7-9月期の+5.6%という高成長から一転してマイナス成長に陥る見込みであり、日本経済が踊り場局面入りしていることを改めて印象付けることになる可能性が高い。

（需要項目ごとの予測値の詳細と解説は、Economic Indicators「2011年10-12月期GDP予測」（1月31日発行）をご参照ください）

2011年10-12月期GDP予測

(%)

実質GDP	▲0.4
(前期比年率)	▲1.8
内需寄与度	0.2
(うち民需)	0.2
(うち公需)	▲0.0
外需寄与度	▲0.7
民間最終消費支出	0.2
民間住宅	▲1.0
民間企業設備	1.4
民間在庫品増加(寄与度)	▲0.0
政府最終消費支出	0.4
公的固定資本形成	▲2.3
財貨・サービスの輸出	▲3.5
財貨・サービスの輸入	0.7
名目GDP	▲0.6
(前期比年率)	▲2.4

※断りの無い場合、前期比(%)
 (出所)内閣府「国民経済計算」